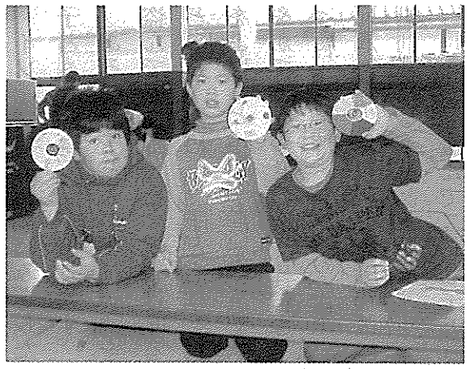
松尾育成会便り

おもちゃを作ったよ！

松尾地区文化祭〈ふれあい子供広場〉

平成18年度
第16号
松尾青少年健全育成会
広報部



二月十日、松尾地区文化祭で“おもちゃを作って遊ぼう”コーナーを育成会が担当。①CDごま②糸ぐるま③プラカップを変化させて作るブンブンごまと、ペンダント＝ほとんどの子供が全作品づくりに挑戦。CDごまでは、用意された材料百個も使いきりました。CDに思い思いの絵を書いたり、色をぬる真剣な姿が印象的でした。

子供たちは自らの作品が出来上がると、早速遊び始めました。友達三人で参加した男の子が、こんな感想を……“自分で作ったこまを回してみた。色はきれいだったけれどはっきり見えなかった。平沢さん（科学工房の指導員）に、「まばたきしながら回（ﾏﾜ）してごらん。」と言われたのでそうしてみると、きれいにはっきり見えてうれしかった”

この日は、あいにくの雨にもかかわらず、多くのお友達とニュースポーツに挑戦しました。

初めて見る大きなキンボールに、目を輝かせながら追う姿や、細工したペットボトルにお手玉を投げ入れるスローインボトルでは、お手玉が入るまで、何度も何度も投げ続ける姿が、印象的でした。

あっという間に二時間が過ぎてしまい、「楽しかった。」「また、やりたい。」という声も聞こえ、私たち指導委員もうれしい限りでした。

11.11〈子育て学習推進事業〉
みんなでスポーツを楽しもう

飯田市体育指導委員協議会
赤羽 美恵子

子供達の真剣な表情や楽しんでいる顔を見て、逆に元気をもらった一日でした。

2の4 えづかしの

キンボールで、じゃんけんをしました。あと2人でキンボールをはこぶのもしました。3かいしました。1かい目は、おとしちゃったけどできました。2かい目は、だいぶ、じょうずになりました。らい年もやりたいです。キンボールのおもさは、1キロなのでおもたかったです。

お知らせ

「松尾少年スポーツクラブ等団結式」が四月七日（土）、小学校体育館で行なわれます。柔道、空手、バレーボール、ゲートボール、はっきりの各クラブ、剣道部、野球教室、ラグビースクールの子供と指導者が一緒に十九年度を元気よくスタートします。団結式の後には各クラブの練習・稽古の様子が公開されます。クラブに入っていないお友達も見学できます。その後加入もできますので、参考にして下さい。

尚、体育館には上履き用の運動靴、スリッパ等を着用して下さい。

元気っ子がいっぱい！地域の大人と交流

松尾児童クラブ 石塚 康夫

児童クラブ（松ぼっくり）は、平成八年に作られ、当時は旧松尾公民館を利用していました。初めは、二・三十人の子供たちでやっていましたが、平成十四年三月に高齢者の福祉施設として「ふれあいの郷松ぼっくり」が建設され、同時に保育園の近くにあった児童センターと児童クラブを統合して、この施設を利用しているのです。現在では百十数人の友達が元気に遊んでいます。もともと児童クラブは、放課後家に保護者のいない家庭の児童育成指導のための施設ですが、人数も多いため四年生以下の子供さんに限定しています。時々いろいろな行事を行い、地域の皆さんには大変お世話になっています。食改善の皆さんの手作りおやつによる交流、婦人会の皆さんによるおはぎ作り、高齢者の皆さんといろいろなゲームや「おやすり」。お母さん有志による本の読み聞かせ、育成会主催の川辺の生物・ニュースポーツ等にも参加させてもらい、本当に感謝しています。又、松尾のボランティアの皆さんには毎日お手伝いに来て頂いています。このように地域の皆さんの応援により元気に楽しく遊んでいます。

児童クラブの特徴としては、学年の枠を外して交流する中でお互いが切磋琢磨し合い、生き方をそれぞれが学び合って行くのではないでしょうか。いろいろな個性を持った子供たちですので、トラブルは日常茶飯事のことで取っ組み合いのけんかもしますが、このような環境の中でこそたくましく生きていく力が身について来るものと思われます。これからも元気な松尾児童クラブの子供たちを見守ってやってください。

「あいさつは人からじゃなく自分から」

十二月九日表題大会が飯田文化会館にて開催されました。大会中の講演会では映画「森の学校」の監督、西垣吉春氏から映画に出演した子供達が映画製作の過程で見せた姿を例えにしながら現代の子供達の状況と大人の接し方について講話されました。

日常生活の中であたり前、常識とされる事が身についていない子供が多い、掛け算の九九、あ・い・う・え・お、か・き・く……が最後まで言えない、ニワトリの絵を描かせると大学生でさえ1～二割の子供が四本足の鶏を描く…という現実。

子供は大人の写し絵です。

一、台所で食事の仕度中でも必ず子供の顔を見て返事をして下さい。

一、買物を手伝わせて下さい。

一、テレビは正面で見させて下さい。

一、料理をトレイのまま出すお母さん、わが家の皿に盛って下さい。

夫婦げんかをしても翌朝には普通の会話をしている親の姿、お母さんとおばあちゃんの関係など…日常から身についた事が大きくなってからトラブルに対応できる人間になるのです。

第27回飯田市青少年健全育成推進大会
平成18年度暴力追放市民大会

最後に子供達の自然をとり戻して下さい。子供達の野性をとり戻して下さい。

大会は最後に「私達は、豊かな人間性と社会性を備え、家族や他人を思いやり、自分で考え、責任をもって行動し耐える心を持った青少年の自立を支援します。」他三つの大会宣言を採択し閉会しました。

「がんばればあいさつ一つできるはず」

イソップ物語に「盗みをした子ども」という話があります。

ある時、子どもがオモチャを盗んで家に帰った。母親は叱るどころか誉めた。子どもはそれをよいことに次々と盗みを働き、やがては札つきの大泥棒になった。遂に捕まり裁判の結果、死刑が宣告され、人民広場で処刑されることとなった。

母親が「なんでこんな子どもに！」と嘆くのを聞いて、息子は母親を呼び、いきなり耳たぶをかじり、噛み切った。

そして、息子は「俺が初めてオモチャを盗んだ時、なぜあなたは叱ってくれなかったんだ。あの時叱っていてくれたら、俺はこんな人間にならなかった」と、涙を流して母親に抗議した。

この話は家庭教育や学校教育はもちろん地域での青少年育成について考えさせられます。

子供達の心豊かな成長を願って

緑ヶ丘中学校長　原 今朝則

人生はやり直しの連続です。特に子どもは失敗をくり返しながら成長していくと言っても過言ではありません。

失敗を温かく見守り、慰め、励まし、再生への道、新しい自己実現のために援助してやることが大人の責務です。

ただし、社会のルールを破ったり自己中心的な言動により他人に迷惑をかけるようなことがあれば、厳しく叱り説諭し、「自己責任」を教えなくてはなりません。

子ども達に教え育てたいことは、「人間が社会生活をしていくにはルールが存在すること、ルールとは社会の良識であること。ルールを守る人間は社会から守られるということ。そして、失敗や間違いをしたときは自己責任を自覚すること。」であります。

あいさつは にこにこえがおで げんきよく

日頃は、緑ヶ丘中学校及び、緑ヶ丘中学校ＰＴＡの事業に対し、ご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今、子どもたちを取り巻く環境はとても複雑で刻々と変化しております。そして「いじめ」「自殺」「子どもをねらった犯罪」等、社会問題にもなっています。

「いじめ」については、今年一月に生徒会で、いじめをしない・させない・見過ごさないという「いじめ追放宣言」を発表し、生徒自らいじめをなくす運動に取り組んでいます。「いじめ」がなくなれば「自殺」も少なくなるでしょう。

「子どもをねらった犯罪」につきましては、緑ヶ丘中学校の校区内では、昨年数件の被害報告がありましたが、周辺他地区に比べ非常に少ないものでした。これは地域の皆様が日頃から、あいさつ運動等で子どもたちを登下校時に見守って下さっているおかげだと思います。

子供達の「安全・安心」を守ろう

緑ヶ丘中学校PTA会長　松枝 彰人

ただ、中学生は地区内でのコミュニケーションが不足しがちなので、親子揃って「文化祭」「運動会」等の地区行事に積極的に参加し、地区の人たちとの交流を図る必要があると思います。子どもたちの「安全・安心」を守るためには、家庭・学校・地域の連携がより一層必要になってきます。地区の皆様には今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

ステキだね あいさつすると えがおになるよ

子供達は地域の宝

松尾自治会長　塩澤 勉

公民館ギャラリーに昭和二十七年、松尾中学校卒業生諸兄姉に送る、「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。」吾々同年会に故藤本三郎先生に書いて頂いた額です。先生は二十七年卒業まで三年間松尾中学校で、その後、緑中の校長先生、長野県教育委員長として十一年間教育の現場で活躍されました。当時五十余年前の少年時代が懐かしく想いだされます。昭和二十五～二十七年といえば終戦後生活もきびしく、松尾も田園風景でエンジン音はまったくしない静かな農村で、現在の若い皆様には想像出来ないと思います。さて当時の先生方は軍隊の経験があり、特に外地で生死を共に戦い、親しい戦友を失い、生き残った先生方は教育も厳しく、「貴様の悪い根性をたたき直してやる。」と、ゲンコツが頭に。よくなぐられた。頭にコブができても家では云えなかった。「お前が悪いからだ」と逆に親から何倍もおこられた。今も先生のゲンコツの痛みが懐かしくその時の姿が想い出される。良い人間に強く逞しい男に成長を願う先生の愛情と深く感謝の念と親父的な生涯の指導者で尊敬してきた。先生に心から「ありがとう」の気持で今も頑張っている吾々は幸せである。現在は教育基本法で体罰は絶対にいけないというのが今の教育だ。小子化問題で尊い子供達をより逞しくより良い子に育ってと、行政と地域も安心して勉強にスポーツに励める環境をと吾々地区民が地域の宝として見守りみんなで育てる。この吾々の気持を子供達に現場の先生方、保護者の方々と一丸となって取組んでゆく。そうした努力、暖かな子供達への愛情が松尾から立派な子供達が育ち将来を担ってくれる若者達に成長して地育力ある松尾と思う。吾々みんなで子供達に目を向けていきたい。

『おはよう』と『さようなら』の ひびく町

松尾少年スポーツクラブ・教室 代表者会から

育成会は二月十四日、表題の代表者会を開き、日頃の活動の成果、問題点などを話し合いました。

各クラブとも日頃の充実した稽古、練習の結果、県の強化選手に選ばれた〔柔道〕二級、一級の昇級試験に合格〔剣道〕南信大会、県大会で活躍〔空手〕大巾に子供の数も増えて指導者も増員、中学生との合同の練習もして魅力的な活動の出来た一年だった〔バレーボール〕等々が紹介されました。

一方で次年度中学に進学する子が大勢居るが中学には部活がなく何とか続けられないものだろうか〔剣道〕防具が大分傷んでしまった〔剣道〕「型」を稽古するために鏡が欲しい〔空手〕練習グランドの確保が難しい〔野球〕子供が一人になってしまった〔はっきり〕太鼓の数に限りがあり対象を小学生だけに絞った〔和太鼓〕等々各クラブ・教室が抱える悩みも出され、今後各方面に働きかけ改善を図る事とし、会議を終了しました。

松尾少年ゲートボールクラブでは

松尾少年ゲートボールクラブは、毎月第2、第4土曜日の午後、ほっ湯アップル南のゲートボール場で練習しています。現在活動しているのは、4年生1名、6年生4名の計5名。地区で購入していただいた真新しいスティックを手に、ねらった方向へ上手にボールを打っています。「ルールもやっているうちに覚えるし、簡単なスポーツなので、是非多くの子供たちに参加してもらいたい」と、指導にあたる田中百子さん。「上達していくのが楽しい」と話す子供たちと、指導される皆さんの、元気な声が印象的なゲートボールクラブです。

くもった気持ち あいさつすれば すっきりさ